

## 第一章 高槻の位置

### 第一節 自然的位置

北摂山地と

高槻市は大阪府の北東部に位置し、北は京都府亀岡市と京都市西京区大原野地区、北東は島

淀川低地

本町、南東および南は淀川を隔てて枚方市および寝屋川市、西は茨木市と摂津市にそれぞれ

隣接している。地域の四極は表一に示した通りで、東西の最大幅約一〇キロメートルにたいして南北の最大長は約二二キロメートルに及ぶ。市域面積は一〇八・四二九平方キロメートルで、全体として南北に引き伸ばされた菱形に近い形をしている(図二)。この菱形は、その北半部が丹波高地に連なる北摂山地へ楔形に侵入する一方、南半部は大阪平野の北部を形成する淀川低地へ伸びており、北摂山地と淀川低地とが接する中央部には、日吉台、安岡寺、南平台、奈佐原などの丘陵地がつづき、富田台地が南方へ突出している。

このように、高槻市域が北摂山地と淀川低地という二つの地形的単元にまたがって展開していることは、先史時代から現代にいたるこの地域の歴史の発展に多様な性格を与える重要な条件のひとつであった。

市域の南東辺を限る淀川は、市域南部の沖積低地を生み出した「母なる大河」であり、この地域の開発と

農業生産、居住に大きな影響を与えるとともに、その水運は、上流に向つては京都、さらには琵琶湖を通じて東日本や日本海沿岸に連なり、下流に向つては大阪湾、瀬戸内海を経て西日本各地に通じて、この地域を全国的な動向の中に位置付け、開かれた地域史を生み出す役割を演じてきた。

一方、北摂山地に源を発して市域を縦貫し、淀川低地に流れ下っている芥川、桧尾川といった河川とその河谷は、山地と低地を続ぶ回廊として機能し、両地域を結びつけるとともに、山地と低地とのかかわりの中で歴史を展開させる基盤にもなっていた。

**瀬戸内気候** 高槻市域は、気候的には、そのほとんど全域が瀬戸内気候区**の東縁** 区に含まれ、その東縁付近に位置する。瀬戸内気候区は温

暖寡雨で住みやすい環境を提供してくれることを特色としているが、このことはまた米作を中心とする農耕にも最適な環境をなし、豊かな農業生産を背景にした歴史を生み出すことになった。

しかし、高槻市では、南北に細長い市域の北半部が山地によって占められているため、山間部と平野部では気候のうえでもかなりの差が認められ、市域の北端に位置して標高約三四〇メートルの檜田地区では、南部の平野部に比べて、気温が三〜五度低い一方、降水量は年間一六〇ミリ前後

表1 高槻市の四極と市役所の位置

	所在地	緯度	経度
東端	淀の原町地先の淀川	北緯34度52分	東経135度40分
西端	大字二料小字院ノ馬場 12番地の1	34 56	135 33
北端	大字杉生小字西谷17番地	34 58	135 35
南端	柱本町地先の淀川	34 47	135 36
市役所	桃園町2-1番地	34 51	135 37

多くなつて、やや山陰型に近い気候を呈している。

## 第二節 人文的位置

大阪・京都の

中間的位置

高槻市の地理的位置を明確にするため、高槻市役所を中心に半径一〇、二〇、三〇キロメートルの同心円をえがいたのが図一である。五キロ圏内には高槻市主要部のほとんど全域をはじめ、枚方市中心市街地、茨木市東部が含まれ、一〇キロ圏内には茨木、摂津両市のほとんど全域、吹田市の北東部、淀川以南では枚方・寝屋川両市域の大半と守口市の北東端、交野市の主要部が入り、京都側では島本町、京都府大山崎町の全域と長岡京市南西部、八幡町西半部が入ってくる。次の二〇キロ圏になると、そこに含まれる市町村数は著しく増大し、大阪平野北東部から兵庫県伊丹・川西両市の主要部、京都府亀岡市の南部から宇治市・向日市をはじめとする京都盆地南部の全域、生駒山地北部などが含まれるが、ここで印象的なのは国鉄の大阪駅と京都駅が、ともに半径二〇キロ線付近に位置することである。さらに三〇キロ圏では大阪・京都両市の市街地全域をはじめ、大津、奈良の両県庁所在都市や阪神間の諸都市、京都府の亀岡盆地などが含まれ、四〇キロ圏になると滋賀県湖南地方や奈良盆地、南河内から泉北の諸都市、兵庫県では神戸市街の東半部や三田市、篠山盆地東部、京都府では丹波高地南部の桑田郡京北町や船井郡日吉町、丹波町などが入ってくる。

このように、大阪・京都両大都市の中間に位置し、市民の日常的行動範囲ともいふべき四〇キロ圏内に

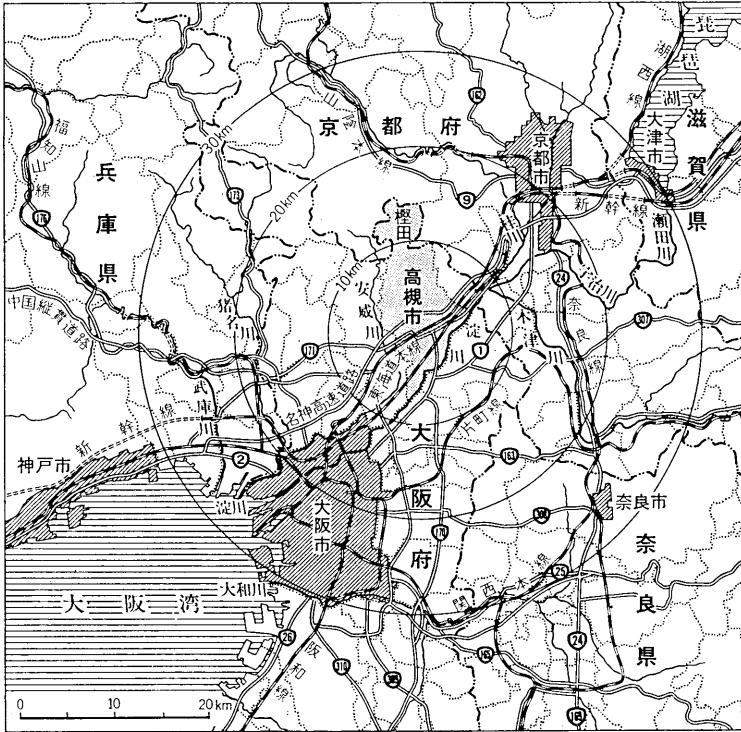


図1 高槻市の地理的位置

は、近畿地方主要部のほとんど全域が包み込まれ、大阪・京都両市の都心へ三〇分以内で到達しうるといふ高槻市の地理的位置は、この地域の歴史を京阪両都心をはじめ畿内各地との密接なかかわりの中で展開させ、独特の歩みをたどらせるとともに、現在の高槻市の性格を強く規定している。このことをもっとも象徴的に示しているのが、高槻市役所の塔屋に白く輝く市章（写一）であり、そのデザインは大阪・京都両市の市章を組み合わせ高槻の高をかたどったものである。

## 1 高槻の自然環境



写1 市役所塔屋の市章

近郊地域 高槻市の地理的位置を大都市の側からみれば、大都市の周辺に位置して、さまざまな側面での影響を強く受けながらも、大都市の存立にとって不可欠な機能を有している近郊地域ということになり、現在の高槻市は大都市（母市）の機能を分担し、日常の諸活動において大都市（母市）に從属しつつ密接な関係を有する衛星都市としての性格が強い。

このような近郊地域としての性格は、大阪、京都が近代都市として成長していく過程で、二〇世紀初頭には近代的大工場が立地し、第二次世界大戦後は、一九五〇年代における内陸工業地域の拡大、六〇年代以降の大規模な宅地開発によって次第に強化されていったものである。しかし、それ以前の時代にあっても、奈良盆地南部の飛鳥地方から直線距離で約四四キロメートル、平城京、平安京からは同じくそれぞれ二四キロメートル、難波京からは約二〇キロメートルと、古代の帝都に近かったことがこの地域の古代史に大きな影響を与え、中世には、当時の幹線交通路であった西国街道や淀川水運に沿った、都に近い要衝として固有の歴史展開を示した。大坂の都市的地位が確立した近世には、高槻藩の存在そのものが京坂両都市に対応したものであり、都市市場での消費を前提とした酒米や菜種の栽培、寒天製造や富田の酒造業など、近郊地域としての特色を色濃くしていた。